

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果

2. 算数の調査結果の概要

問題の概要	問題形式	正答率
1(1) 5脚の椅子を重ねたときの高さを求める。	短答式	87.3%
2(2) テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。	短答式	81.8%
1(2) 椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。	短答式	74.5%
2(4) テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について、分かることを選び、選んだわけを書く。	記述式	10.9%
2(3) 切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く。	短答式	12.7%
3(2) 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。	記述式	30.9%
4(1) 示された基準量と比較量から割合が30%になるものを選ぶ。	選択式	30.9%

(1) 分析

正答率の高かった項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

<正答率が高い>結果から、以下の内容が多くの子供へ身に付いていることが分かった。

- ① 伴って変わる二つの数量の関係を表から読み取ることができる。
- ② 伴って変わる二つの数量を見て、比例の関係かどうか判断することができる。
- ③ 正方形の意味や性質について理解している。

以上の理由は、①②に関しては表を見て読み取る活動を通して比例の性質の理解が深まったためと考えられる。③に関しては、具体物を使って操作する数学的活動に取り組むことを重視したため、正方形の性質の理解が深まったと考えられる。

<正答率が低い>結果から、以下の内容に多くの子供が苦手意識をもっていることが分かった。

- ① 三角形の性質や面積の公式を理解し、面積の大小を判断して説明することができる。
- ② 示された場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて求め方と答えを、式や言葉を用いて記述する。
- ③ 百分率であらわされた割合について理解し、計算する。

以上の理由は、①に関しては、応用的な問題を解くだけでなく、考え方を書いて説明する機会が少なかったと考えられる。②に関しては、たくさんの説明から必要な情報を読み取り、聞かれていることを判断することが課題であると考えられる。③に関しては、複数の基準量と比較量から、割合を導くことが課題であると考えられる。

(2) 対策

以下、正答率が低かった問題への対策について

◎自分の考えを書いて、説明する機会を増やす

基礎的な問題については、説明することができている子供は多い。発展的な問題についても、既習事項を活用しながら求め方を書いて説明したり、友達の考えを聞いて書いたりする活動を増やしていく。

◎複数の情報から必要な条件を読み取る場面を増やす

多くの情報が提示されている時に「どの情報が必要なのか」資料を見て読み取る力を高める必要がある。算数に限らず、各教科で資料から何を読み取ることができるのか自分で考える時間を確保していく。